

## 産業分野 20年後の望ましい姿（案）

### 1. 審議会・小委員会での主な意見

- ①地場産業を支える若い力をどのように育て、伸ばしていくかということが大切。
- ②ものづくりを担っていく人が定住して、消費者としても定着するといった形で、持続可能な経済をどのようにつくっていくのかということも非常に大事なテーマである。
- ③ネット通販のようなICTの活用による影響に、既存の小売店がどのように立ち向かっていくかという視点も必要になってくる。
- ④台東区の地の利を活かして、新たな産業を呼び込み、育てていくといった施策が必要。
- ⑤区内事業所の従業員に高齢者が多いことが課題。創業・起業支援だけでなく事業所誘致が必要ではないか。
- ⑥商業と観光が連携した施策も必要ではないか。
- ⑦クリエイティブなものが生まれるには多様性が必要だと言われている。台東区には多様性があるのでクリエイティビティを発揮する創造的産業の拠点となるよう取り組めば、将来につながる。
- ⑧産業の集積も台東区の個性として活かしていきたい。
- ⑨20年後は産業構造や働き方も変化しているので、臨機応変に時代に対応できる力を教育していく必要がある。
- ⑩産業・観光・文化の連携は必要。

### 2. 20年後の望ましい姿（案）

経営基盤の強化や円滑な事業承継、誰もが活躍できる環境づくりにより、企業が社会の変化に対応して持続的な成長を果たし、世界に飛躍しています。

加えて、次代の産業を担う人材の育成により、創業・起業が促進されて、台東区の特性である多様な産業の集積が一層進んでいます。

また、地域の特性を活かした、個性と魅力溢れる商店街が形成されています。

そして、ものづくりをはじめとする区内産業の更なる振興が図られて、地域経済が活性化しています。

# 観光分野 20年後の望ましい姿（案）

## 1. 審議会・小委員会での主な意見

- ①周辺区と連携し発展していくということも必要ではないか。
- ②区民と観光客の相互理解が必要。
- ③上野・谷中・浅草など一定の所に人が集まるので、人の流れをどう分散させるかが大切。
- ④人の流れを分散させるには「歩けるまちづくり」が必要。
- ⑤外国人観光客にとって歩けるまちというのは魅力的。
- ⑥産業の集積は観光的にも面白いので、その視点から新しい観光資源を作っていくのも良い。
- ⑦観光においては、台東区に来て、何を感じて帰ってもらえるのかという視点が大事。
- ⑧外国人観光客については、日本、台東区の文化を好きになる人を作ることが大事で、そのためには、台東区民が自分たちの文化を好きになって大事にすることが大切。
- ⑨観光に来た人を排除することなく温かく受け入れるホスピタリティを醸成し、文化への理解を深めることが、日本を好きになってもらうことに繋がる。
- ⑩人々が観光に望むものは、「旅先での人と人の触れ合い・交流」になっているのではないか。
- ⑪マナーの悪い外国人への対応は考える必要がある。
- ⑫観光ではこれまで積み重ねてきたものも大事。古いものを大切にしたいうえで、新しい切り口が必要になる。
- ⑬回遊性が重要なので、行ってみたいまちにすることが大事。
- ⑭産業・観光・文化の連携は必要。
- ⑮観光は量から質の転換が必要。観光客を制限していくことも重要となってくる。

## 2. 20年後の望ましい姿（案）

まちに息づく多彩な地域資源に一層磨きがかかり、世界に冠たる観光都市として、世界中の人々を惹きつけています。

また、観光客が安全・安心・快適に滞在できる環境の整備や、区民のおもてなし意識の醸成、区民と観光客との文化や習慣等の相互理解が促進されています。

そして、誰もが満足し、持続的に発展し続ける質の高い観光地が形成され、区民生活の一層の向上が図られています。

# 文化分野 20年後の望ましい姿（案）

## 1. 審議会・小委員会での主な意見

- ①区民の文化権の保障というのが一番筆頭に来る課題。
- ②文化は2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会と関連が深い分野なので、オリンピズムを反映した施策を展開していく必要がある。
- ③文化の高まりを一過性のものではなく、2020年以降もきちんと続けて、産業施策とも関連させていく必要がある。
- ④区民の方々が日常的に文化に触れることができ、親しみを持てるような環境づくりが重要。
- ⑤子供のうちから芸術や文化を身近に感じて楽しめる心を持てるような政策が課題。
- ⑥台東区には伝統的な芸能や区民のための、国立西洋美術館や東京都美術館をはじめとする施設が揃っている。そうしたものを活用するなど、台東区にしかない文化施策を考えるべき。
- ⑦日本文化・伝統に対する外国人の憧れは強い。着物や帯、草履など台東区には多くある。文化を大事にすることは、産業を大事にすることに繋がるので、文化と産業を一緒に考えて欲しい。
- ⑧産業・観光・文化の連携は必要。
- ⑨日本文化の良き理解者を増やしていくことが重要。
- ⑩台東区が日本の顔になるという姿勢を示すことが重要。

## 2. 20年後の望ましい姿（案）

江戸の昔から、先人たちが築いた多彩で粋な文化が、将来にわたって継承されています。

また、新たな文化の創出や、誰もが文化を享受できる環境が整備され、人々の心豊かな生活が実現しています。

そして、文化の力が様々な分野に活かされて、都市の魅力と活力が向上しています。

# 環境分野 20年後の望ましい姿（案）

## 1. 審議会・小委員会での主な意見

- ①都のごみ分別方法は複雑で、戸別収集でごみは減っているというが、地域の現状を見ると分別の仕方がひどい。20年後を見越した際、この問題はどうかしなければならないので検討していただきたい。
- ②個人の生活ごみは減少しており、一定の成果をあげている。問題は事業系ごみで、その中でも生ごみと紙で8割を占めている。この対策を行えば、ごみは大きく減る。
- ③資源回収量は気にせず、むしろ資源回収率に着目すべき。
- ④資源回収量を増やそうという目標を立てている自治体がほとんどだが、このことについては清掃一組を含め、23区等でも見直していく必要がある。
- ⑤区民・事業者の意識を高める制度設計を行政が提供することが重要。
- ⑥花や緑の創出では、台東区は重点的にバックヤードを綺麗にしていったら良いのではないか。
- ⑦レジ袋の有料化のように、環境保全への効果が高い経済的手法の活用を考えると良い。ゴミの有料化も検討してほしい。
- ⑧建物を高層化して残った土地に森を作るといった取組みも考えていくべき。

## 2. 20年後の望ましい姿（案）

区民や事業者による環境問題への積極的な取り組みにより、地球環境に優しい社会への転換が図られています。

また、地域が一体となった花やみどりの創出、隅田川をはじめとした水辺環境の保全により、豊かな自然が次世代へ継承されています。

そして、誰もが住みよい、潤いのある快適な都市環境が創出されています。